

氏名 滝口道弘

学位の種類 医学博士

学位授与番号 博乙第 2027 号

学位授与の日付 平成元年 9月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 急性白血病再燃病態並びに再燃予知に関する研究

第1編 急性骨髄性白血病における寛解時骨髄細胞構成比と再燃予知に関する検討

第2編 急性白血病における血清 IAP 値と再燃予知に関する検討

論文審査委員 教授 太田善介 教授 辻 孝夫 教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

第1編

急性骨髄性白血病における再燃病態の解析とその予知を目的とし、寛解から再燃までを観察し得た急性骨髄性白血病28例における寛解時骨髄標本計334検体について再燃までの骨髄細胞構成比を骨髄芽球、前骨髄球、赤芽球を中心に検討した。その結果、

- 1) 寛解時骨髄では「骨髄芽球3%以上」、「前骨髄球12%以上」、「赤芽球45%以上」または「赤芽球15%以下」が非定型的因子として設定され、寛解強化療法中「骨髄芽球3%以上」と「赤芽球構成比異常」を伴う骨髄所見は再燃早期を強く示唆するものと考えられた。
- 2) 寛解時骨髄において「骨髄芽球3%以上」の所見を認めた場合、2週未満内に強化療法を施行した群の50%寛解期間が4.7ヶ月であったのに比し、2週間以降に強化療法を施行した群では1.5ヶ月であり、この時点での早期強化療法が長期寛解につながるものと考えられたが、寛解時骨髄におけるこれら非定型的所見は前白血病状態に特徴的な血液所見とも一致するものであり、この時点でのより詳細な検討は再燃予知と早期治療といった点のみならず、今後、前白血病状態あるいは Myelodysplastic Syndrome (MDS) の病態解析についても一つの情報を提供するものと考えられた。

第2編

急性白血病における再燃あるいは予後予知を目的とし、血清 IAP 値について検討した結果、

- 1) 未治療例血清 IAP 値は、病型に関係なく正常健康人に比し有意の ($p < 0.05$) 高

値を示した。

- 2) 寛解例における血清 IAP 値は、未治療例に比し低値を示し、正常範囲内に低下する傾向が認められた。
- 3) 血清 IAP 値と骨髓内白血病細胞百分率との間に $r = 0.39$ の正相関 ($p < 0.05$) が認められた。
- 4) 発熱 (38°C 以上) (+)群の血清 IAP 値は、発熱(-)群に比し有意の ($p < 0.05$) 高値を示した。
- 5) 寛解期間別血清 IAP 値は寛解期間の延長とともに低値となる傾向が示された。
- 6) 寛解中血清 IAP 値 500 ng/ml 以上群における再燃率は10例中7例、70%, と 500 ng/ml 未満群の15例中2例、13.3%, に比し有意に高い値が示された ($p < 0.05$)。今後、急性白血病における血清 IAP 値の測定は白血病病態のモニタリングに際し有用と考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は急性骨髓性白血病における再燃病態の解析とその予知を目的とし骨髓標本を検討した結果、寛解強化療法中「骨髓芽球3%以上」と「赤芽球構成比異常」を伴う骨髓所見は再燃が早いことを強く示唆するという結果を得た。また急性白血病における血清 IAP 値の測定は白血病病態のモニタリングに際し有用と考えられた。これらは臨床的に価値ある業績であり、よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。